

ICF14 参加報告

博士課程 2年 武末翔吾

私は2017年6月19日～23日にギリシャのロドス島で開催された14th International Conference on Fracture (ICF14)に参加してきました。この会議は4年に一度開催され、今回が14回目となります。前は2013年に中国の北京で開催されました。今回開催されたロドス島は世界遺産にも登録されている観光地です。日本からはヘルシンキなどを經由して行くことができます。この会議は金属、セラミックス、高分子など各種材料の破壊について扱う国際会議です。ヨーロッパ、アメリカ、アジアなど、世界中から材料の破壊を扱っている研究者が参加しており、5日間で1000件を超える発表がありました。

私は4日目の6月22日に“Surface treatment for failure resistance”というセッションで、“Effects of treatment temperature of gas blow IH nitriding on surface characteristics and fatigue properties of titanium alloy”という題目で発表しました。このセッションでは、表面処理を施した材料の破壊について扱った研究が発表され、合計7件の発表がありました。私の発表中は30人ほどの聴講者がおり、このセッションの中では比較的多くの人に興味をもっていただいたと感じています。私にとって国際会議での発表は3回目でしたが、疲労・破壊に関する国際会議への参加は初めてであり、英語力に加えてこの分野に関する知識の不足も感じました。英語で発表する力に加えて、知識を深めることにも今後努めていきたいと思います。



会場となったロドスパレスホテル



学会会場にて私と小茂鳥先生



ロドス島内の観光地リンドスにて
広島大、神戸大の皆さん

私が発表したセッションの他の発表では、私も研究しているショットピーニングを施した金属の破壊に関する発表などもあり、他の研究者の発表を聴講することも有意義でした。また会期中の5日間にわたり、疲労・破壊に関する様々な発表を聴講することで、非常に多くのことを学ぶことができました。加えて今回の学会は日頃から共同研究などで関わりがある広島大学、神戸大学の先生方や学生も参加しており、互いの発表を聴講し、内容について議論することができました。他大学の先生や同世代の学生と研究に関して議論することで、普段自分では気づかないことや新たな発想を得ることができ、今後研究を進める上で、非常に役立つと考えています。

最後になりましたが、今回発表の機会を与えていただいた小茂鳥先生に深く感謝致します。また今回の発表で連名者となっただき、日頃より研究をご指導いただいている広島大学 曙先生、神戸大学 曙先生に御礼申し上げます。現地では小茂鳥先生、曙先生、菊池先生と広島大学 菅田先生 小川君、神戸大学 温井君、小茂鳥弓子様にお世話になりました。皆様に御礼申し上げます。